

製本のススメ

Vol. 215

今年の夏は何となく懐かしい感じがしますね。コロナで開催されなかったイベントやお祭りが、戻ってきたように思います。コロナ過で人は変わったと言われますが、日本人のスピリットは変わりませんね。花火大会・各地の夏祭り・遠くから聞こえる太鼓の音に心湧きたつ今年の夏です。

今回は**変形判の面付**の話し

本のサイズはA列B列の他にも色々あり、大きな物ではタブロイド判(273/406)・小さな物では三五判(84/148)その他A B判・新書判・重箱判・小B 6判等があります。紛らわしいのが菊判(150/220)です。呼び名が勘違いしやすいですので、最近はあまり使われません。

さて一般的に印刷用紙は4/6判・菊判・A判などへA4やB5と言ったサイズの印刷がなされますが、変形判の場合には用紙に無駄部分が多く出来てしまうため、この面付の仕方に悩むところです。当然ながら**紙目は絶対に揃えないといけません**。本が大型ならば諦めもつきますが、小型本では面付次第で用紙の無駄を省けるような気になりがちです。しかしながら実は後加工に大きな影響が出てきます。

基本的に製本機械はA 4～B 6規格の縦本に対応しています。逆に言えばそれ以外に対応していない訳ですから、新書判の本であっても**印刷用紙はB 6判の本を作る時と同じ**で製本工程の最後で仕上げ断裁時に小さく仕上げるだけです。機械に対応できないと後加工で手間が掛かり**加工代は上がり納期も遅れ、しかも出来上がりが良くなりません**という事例が沢山あります。また加工によっては**「出来ない」**という場合も起こり、結果的に刷り直しという事になりかねません。とりわけ小型本の表紙や別丁の刷り本(扉やペラなど)では、上記のような事故も多く注意が必要です。

さて用紙は大きくてもドブ幅の取り方でその仕様は大きく変わります。無線綴じであれ中綴じであれ6ミリ(3・3)のドブで何面も付けては、**用紙を大きくした意味がなく結果的に加工できない**という事も起こります。変形サイズの冊子を印刷する場合には、ぜひお取引の加工会社へお尋ねください。



Te a b r e a k

巷でひっそりと流行しているらしい「ご朱印帳」ですが、用途を変えて「ご書印帳」「鉄印帳」など多方面で密かな人気だとか。御朱印ではなく、スタンプ帳の様に使われているようで、全国の本屋(ご書印加盟店)巡りや鉄道でのイベント・旅のスタンプ帳として外国の方々にも人気だそう。何物も見方を変えると違うものが見えてくるものですね。

弊社 HP は <https://www.iseki-seihon.com>

メールアドレスは info@iseki-seihon.com

ご登録の変更をお願い申し上げます

by (株) 井関製本